

瓊林49~100号 主要記事

(1) 本表は「瓊林」52冊が収載する[主要記事150篇]について、1篇毎に記事表題/執筆者(卒回)/記事内容/分量/掲載号・頁/分類記号を1件1行で掲示したものである。主要記事の内容は、編集事務局の企画した[特別寄稿]欄、「随想」欄—青春長崎記・恩師先人録・戦記-外地訪問記・同窓生所感—を軸に、時々経済社会論・大学院問題の推移・学長-学部長-教授連-本会役員の所見・講演録など多様多彩である。

(2) 前述4項の時期区分に沿って主要記事を概観する。(4項の記事別の再述でなる点はお許しあれ)

(i) No49~60号では、戦前戦中期、高商30回卒までの先輩方より、青春長崎記(行番9/12/22/35/45)・恩師先人像(行番2/8/21/33)・戦記・外地戦跡回顧(行番13~17/23/37~39)・学問-母校-大学院に対する確かな信奉(行番7/18/19/26/41)・在中国同窓生との交歓(25/31)などを読み取ることが出来る。「七十年史」を生んだ同窓生世代中心の熱気溢れる文芸隆盛期であり、その背後を卒回別同期誌・地区別瓊林誌が支えていた。

(ii) No61~85号について。長崎大水害(行番46)の後も暫くは、永田会長国際化講演(行番50)・80年記念祭(行番61)・募金(行番61/79)を経て、母校・恩師を懐古(行番54/56/64/65)、青春と友情・長崎を懐旧する(行番53/69/72)するなど、時は和やかに流れた。然しその背後では、戦前戦中世代の訃報が相次ぎ(No72号)、本誌上でも新世代の本会内部への注文(行番70/106)・「尋ね人」(行番58)など、新時世への対応も必要になっていた

時を同じくして、保田学長による大学移転統合(行番71/73/77)・学部教官の多人数転出(行番81/85/91)・土屋学長・園田学部長書簡(行番83/84)・大学院設置に関する文部省高官の「長大(学部)死に体」発言(行番95)などが相次ぎ、「母校の大学院問題」(行番95-99/102-104)は、一挙に世間の注目を浴びる事態に陥る。これとは別に84-85号の「長崎工業経営専門学校」入学者の殉職(行番108)・被爆体験集の刊行(行番105)も忘れ難い。

(iii) No86~100号について。大学院設置問題は母校教授会・学生・瓊林会三者夫々に大きな傷痕を残した。関係者間では、経過報告(行番110)と共に、学部の現状と課題(行番111/119/121/125/128)が整理された。同時に現実の汚点(行番120/124)、教官側の書簡(行番138)も掲示される。これを受け母校・瓊林会は、巷の新聞広告を軸に、パブリシティの維持(行番126/127/128/136/143)に懸命となる。この間、我が国経済情勢は金融ビツクバン(行番129)を契機にバブルが崩壊、山一証券の自主廃業(行番131/132)・金融機関の不良債権問題(行番123)・金融系列の再編成(行番145)が進行した。この時期、寄稿者の主流は、高商30-40回卒・学卒世代へと交代したが、旧世代の(母校~恩師~青春長崎~木造旧校舎)と連なる(選良意識と生活倫理感)は既に輝きを失い、今後の「瓊林」誌を、次世代に繋ぐ新たな駆動力を必要とした。

(iv) No100号の先へ。而して今後の「瓊林」を支える理念は何なのか。事務局は学卒回数を特定して「瓊林」誌への寄稿を依頼する試みを行った(「瓊林」82号(G20/21)~94号(G33)卒回生対象)。然し新世代の寄稿は優れた個人史の報告(行番86/109/116/117/118/134)であっても、同窓意識の涵養に連なる新たな瓊林会理念が提唱されることもなく、逆に高商世代の青春懐古・選良意識(行番135/142)を疑問視(行番70)し、冷静に当世学生気質を語る(行番133)原稿が寄せられた。思うに地域マスコミの「どうした経済学部!」の評価は、1975年(S50)年頃から、母校教官・学生間では無力な倦怠感として日常共有されており、現実を知る学生は海外研修・資格所得(行番133)に動いた。その実感に不感性なのは「全国3番目の創設高商」の残照意識が未だ褪めやらぬOBが多く、事務局は、この事態に即し(No99/100)号の2冊で「同窓会を考える」特集記事を組んだ。

(v) 100号特集記事での代表的書簡に、前田三郎・藤善亘の両稿(行番149/150)がある。藤善稿は「従来通り親睦を絶対の目的とし余裕があれば母校の援助をする」という現実的な見識を示し、前田稿は国立大学法人化を前に「学部が個性化を進め特色ある学部として第三者評価を高める」ため、瓊林会が「会費納入率を高め、財政的基盤を強化し寄付金の非課税扱、超低金利期の東南ア基金果実対策などを検討すべき」との正統派見解であった。但し、本会の活動理念につき、正面からその在り方を問う論議はなく、公益性の理念も見られない。

瓊林49~100号 主要記事一覧

行番	号番	記事表題	執筆者	掲載頁	記事表題	記事分量	写真	記号	刊行年月
1	No49	短大創立25周年祝典	長崎商短大	7-100均	商業短期大学部記念式典の記録	2,000		G	S51/12
2	No49	老いの価値	飯田大吉(7)	14-16	高島勘一(1)横山柁太郎(2)先輩に学ぶ	4,000		D	
3	No50	東京瓊林句会発足	山本行治(32)	34-35	東京瓊林句会発足・森澄雄先生の指導で	1,500	1	H	1977
4	No50	港町ー長崎・ナポリ・シドニー	岡部芳夫(35)	27-30	NHK勤務の筆者が語る3港の印象記	2,000	2	H	
5	No50	長崎高等商業学校	週刊朝日編	51-56	現代に脈打つ旧制・青春風土記(26)	7,500		G	S52/5
6	No50	東南亜開発と長崎の地位	横山柁太郎(2)*	38-42	東南亜研究所の使命(遺稿随筆集より)	4,000		H	
7	No51	長崎港のまわりで	大西定夫(20)	51-58	「海外文化と長崎」出版記念論叢	12,000		C	S52/12
8	No51	卒業当時の思い出	田中丈平(3)	2-5	柴崎校長・山本先生・徴兵検査・勤業勤務	1,500		D	
9	No51	なぜ！長崎がこんなに懐かしい	安藤覚(6)	11-12	18~21才、青春の日々に長崎に学んだ	2,000		E	
10	No52	国際人としての日本人	武藤和夫(25)	13-15	京浜東北線車内での外国人の子ども	2,500	0	H	1978
11	No52	わが四角関係(詩歌句交友録)	平尾勇(38)	72-75	長崎大学歌・内野肇・手島郁郎・最上義満	6,000		H	
12	No52	長崎以後の私	佐藤徳三郎(3)	2-4	三井物産から東日本造船・囲碁ゴルフ92歳	2,500		E	S53/5
13	No52	三十三年目の旅	石垣定男(18)	6-12	タイ・マレー戦跡訪問記	5,500	3	F	
14	No53	満州・1941年の夏	岩崎健治(24)	30-35	満州国官吏の青年時代	8,500		F	1978
15	No53	老兵北ボルネオで戦うの記	津山秀雄(22)	22-29	老兵北ボルネオ戦記	7,500	8	F	
16	No53	難民生活一周年の思い出	浜田千敏(19)	9-17	満州・奉天からソ連へ	9,000		F	
17	No53	大戦中米抑留生活の思い出	安藤直明(20)	7-9	S16/12-S18/6-米東部ボルチモア・同窓生6名	3,000	2	F	S53/12
18	No53	「日英交通史」復刻版の刊行	永富光夫(28)	47-48	武藤長蔵著「日英交通史」復刻版の刊行紹介	3,000		C	
19	No54	山田憲太郎博士とその著書	寺崎勇夫(20)	88-89	「東亜香料史研究」の紹介	7,500	0	C	1979
20	No54	薄命の「成隣会館」	三瀬清次郎(24)	33-36	薄命の「成隣会館」の竣工と始末記	6,000	1	B	
21	No54	思い出の町思い出の人	吉田敬太郎(13)	4-6	高商3回生、大先輩の思い出の記	3,500	0	D	
22	No54	「僕の回顧録」	古賀琢一(21)	23-28	本稿以降、NO80まで続けられた青春記	7,500	1	E	S54/5
23	No54	遺骨収集記	内野正丈(43)	51-56	ビルソン島遺骨収集団参加記	9,000	0	F	
24	No55	第19回日本寮歌祭記	津山秀雄(22)	75-81	S54/10/20/日本武道館/50余名	9,000	3	G	S54/12
25	No55	中国同窓との交流	楊励謙(36)他	67-74	張春雨(31)氏など10数名・渡辺正信(31)	10,000	3	B	
26	No55	一卒業生の八十周年の夢	J・T	48	母校80周年(1985)の危機を予言した匿名原稿	920	0	C	1980
27	No56	母校創立75周年を祝して	永田敬生(26)	69-74	永田敬生(26)会長他各支部長祝辞	5,500	7	G	
28	No56	私の職場・十八(親和)銀行	梅田昭郎(44)	87-88	十八瓊林会139名(親和瓊林会112名)の紹介	2,000	0	B	
29	No56	第6回東南アジア研修旅行報告	林繁雄・他2名	89-91	(東南ア在学研)の研修報告	3,500	0	C	S55/5
30	No56	大学の人流・共に生きた青春の絆	サンデー毎日編集部	24-30	「サンデー毎日」(S55/3/30)母校紹介記事	7,500	5	G	
31	No57	熱烈歓迎・中国同窓生と再会	山田十三三(31)他	68-72	在中国同窓生5名の母校訪問・友情交歓	8,500	35	B	S55/12
32	No57	函南の翼考	末続吉間(22)	25-28	建学の精神と満鉄調査部からアフリカ志向	4,000	0	F	
33	No57	伊藤久秋・伊藤勇太郎追悼	長田俊雄(27)	11-19	伊藤久秋・伊藤勇太郎先生を偲んで	1,800	2	D	
34	No58	スイスの宿	五島敏郎(26)*	24-26	スイス・アルプス漫遊記	4,000	0	H	S56/5
35	No58	懐旧長崎旅日記(1)	鮫島正勝(31)	33-36	木造母校校舎と武藤先生の思い出	4,000	0	E	
36	No58	芥川龍之介と武藤長蔵先生	寺崎勇夫(20)	38-41	山田憲太郎博士(22)の書簡挿話	3,500	0	D	
37	No59	思いも新たに八月十五日	田村秀忠(27)	26-	北京・華北交通本社脱出記	5,500	0	F	1981
38	No59	中国同窓との交流/訪中国記	岩井鶴次郎(21)他	51-78	訪中団10名の旅行記・消息判明の同窓生名簿	11,200	3	F	
39	No59	佐渡旅行の記	土師二三生(32)*	45-48	73歳・20名・3日間の佐渡旅行	3360	2	F	
40	No59	友の会・四年の歩み	広野敬吾(5)*	43-45	友の会発足の経緯・「千鶴会報」のこと	2,880	0	B	S56/12
41	No59	大学院設置を！	J・T	43	地の利を生かし、教官の全国からの公募を	600	0	C	
42	No60	新講堂の陶板壁画について	諸谷義武(23)	60-61	出島巖・山田正孝氏デザイン、有田対山窯制作	1,000	1	H	1982
43	No60	「私の本棚」から	雪竹助三(27)	35-39	友の会入会・「読書余録」「野草春風」所感	6,000	0	H	
44	No60	昔を今に(21)	珍竹林(27)	33-35	「瓊林」誌、49-67号の常連随想記事	2,500	4	H	
45	No60	続・長崎の町ひとりある記	寺崎勇夫(20)	5-11	昭和56年母校界限周遊記	3,500	3	E	S57/5

注記 記号欄→ A=社会経済論・B=瓊林会関連・C=学問-教育-大学院・D=恩師先人像・E=青春長崎記・F=戦乱外訪記・F=他随想雑録

瓊林49~100号 主要記事一覧

行番	号番	記事表題	執筆者	掲載頁	記事内容	記事分量	写真	記号	刊行年月
46	No61	長崎水害の記(3篇)	山本八郎(23)他2名	106-112	「長崎大変」(山本)・長崎水害(若杉)体験記	9,500	12	H	1982 S57/12
47	No61	十年目の邂逅	三瀬清次郎(24)	17-20	前事務局長によるシンガポール随想	2,500	0	F	
48	No61	「或る青春の挫折」亡友日記より	屋敷田賢作(G10)	56-65	自裁した僚友小山義郎の二十歳日記(S33/10)	13,000	0	E	
49	No62	惜別-山田憲太郎博士	寺崎勇夫(20)	4-8	武藤教授門下の香料博士追悼	5,500	0	D	1983 S58/5
50	No62	国際化時代の企業経営	永田敏生(26)	97-113	(S57/11/18)東南ア研での会長講演録	30,000	1	A	
51	No62	函南の翼-研修旅行	西尾俊英(学部4年)	121-136	学生11名による東南ア諸国研修旅行記	15,000	14	F	
52	No62	戦後台湾の経済成長と儒教三民	坂口幹生(教授)*	80-87	訪台視察旅行記	12,000	0	F	1984 S59/5
53	No62	瓊林佛師の会・作品誌上展	寺田福夫(25)	153-155	無心に彫る(寺田福夫)/拙に執す(最上義満)	2,000	24	H	
54	No63	川島教授の死と武藤先生の涙	平原直(16)	8-11	朱印舟貿易史・学教授の聖福寺での葬儀	5,000	0	D	
55	No63	「瓊翠会」発足について	浜崎由美(学部3年)	114-115	発足の趣旨、役員紹介、出席者80名、	2,000	0	B	1985 S60/5
56	No64	50年前の講義プリント	寺崎勇夫(20)	10-11	50年前の講義プリント武藤文庫に寄贈さる	1,500	0	D	
57	No64	瓊林友の会と私	広野敬吾(9)*	65-68	会発足の趣旨、横山柁太郎(2)との千鶴会会報	4,500	0	B	
58	No64	尋ね人	瓊林会事務局	109-115	高商4回~学部11回1179名(12%)の名簿収録	2,000	0	B	1985 S61/5
59	No65	社会への大学教育解放の意義	梶原禎夫(教授)	5-6	専門講座を社会へ開放する意義「不況期の企業経営」	2,500	0	A	
60	No65	日本寮歌祭・神戸寮歌祭参加	五島敏郎(26)他	107-117	日本寮歌祭・神戸寮歌コンサートへの参加記	15,000	6	G	
61	No66	母校創立80周年を祝して	永田敏生(26)	50-51	永田会長・東京・大阪・福岡他支部長挨拶	3,000	7	G	1985 S60/5
62	No66	瓊林の出典について	種吉義人(41)	14-15	長畑桂蔵先生の中国書誌を解く	2,500	5	B	
63	No66	校歌「暁星淡く」に思う	坂口幹生(教授)*	8-12	貿易学科・東南ア研の活性化なるか	5,500	0	C	
64	No66	成隣会館について	瓊林会事務局	50-51	成隣会館の古写真と落成記念資料(山本氏資料)	1,000	5	B	1985 S61/12
65	No66	田崎仁義先生の思い出	榎屋良一(14)	43-48	高商14回卒大先輩による恩師の記憶	4,000	0	D	
66	No67	母校創立80周年を祝う	瓊林会事務局	1-92	80周年祝典・式次第・出席者・同期の集い	#####	10	G	
67	No67	母校学部の振興と国際文化学園都市構想	溝口元次(21)	18-22	大学院設置と国際文化学園都市構想	17,000	0	B	1985 S61/12
68	No67	平和の仕事について	松永照正(43)	26-29	国際文化会館長職の3年	10,000	1	H	
69	No68	「瓊林友の会」の諸々の機能	広野敬吾(9)	60-61	「瓊林友の会」の諸機能紹介・会員勧誘	6,000	0	B	
70	No68	母校と私	森口茂(学24)	25-27	個性教官の育成を、想い出話の瓊林会は駄目	3,200	0	H	1987 S62/5
71	No69	長崎大学統合移転の問題について	瓊林会事務局	94(3)	統合移転構想-保田学長案(移転先地図・現況写真)	5,000	1	C	
72	No69	支那事変と俳句・高商俳句会の憶い出	福富義太(29)	17-18	支那事変と俳句・高商俳句会の憶い出	2,500	0	E	
73	No70	長大移転地は破筆井か京泊か	溝口元次(22)	44-48	国際文化学園都市構想による移転候補先	7,500	4	C	1987 S62/12
74	No70	アメリカ留学と帰国子女	山下正喜(教授)*	2-5	アメリカ・イギリス留学記と帰国子女問題	3,000	1	H	
75	No70	野村証券の古き良き日のこと	稲田実(16)	9-18	大先輩からの聞き書き・1922(T11)~1945(S20)	9,000	0	E	
76	No71	金利自由化とその周辺	内田滋(教授)	8-11	産業構造の3次部門化・ソフト化・金融自由化	3,000	1	A	1989 H1/5
77	No72	移転しない文教地区再開発案	保田正人(学長)	18-22	長崎大学を現在地で26年かけ再開発する案	2,600	2	C	
78	No73	国際経済関係の変質	吉田道夫(助教授)	4-6	日米経済交渉、物金を超えるグローバリズム	4,000	1	A	
79	N72/3	学部創立80年募金事業決算	記念事業会	114/130	No72(p113)/N073(p130)・募金事業決算報告	****	0	G	1989 H1/12
80	No74	外国人留学生問題をめぐって	桜井克彦(教授)	3-9	学部約30名、就学・生活・就職、直面する課題	3,400	1	C	
81	No74	転任の辞	田村祐一郎(前教授)	6-7	「温かい」が「暗い・変わってよかった」声多数	2,200	1	C	
82	No74	こんにちは瓊翠会です	湯藤康子(学5)他	35-38	瓊翠会の現況と展望。花岡琉子(学6)稿併載	3,500	1	B	1989 H2/5
83	No75	長崎大学の現状と将来	土山秀夫(学長)	5-6	大学院設置・地域との連帯・国際交流留学生受入	2,500	1	C	
84	No75	母校経済学部の活動状況	園田格(学部長)	7-11	教官活動状況・大学院設置・留学生受入	4,500	1	C	
85	No75	田村教授の転出記事・残念	松本比佐雄(36)	25	田村教授転出記事(74号)が本当なら残念	850	0	C	1990 H2/12
86	No76	泰国T大学との学術交流協定	都野尚典(教授)	3-5	チェンマイ大学との学術交流協定の締結	3,500	1	C	
87	No77	長崎国際シンポジウム報告	都野尚典(教授)*	12-15	「アジア太平洋地域の経済発展と協力」/外人11名参加/雲仙	4,500	1	A	
88	No77	アジア太平洋地域と日本の将来	土井貞包(41)	16-27	アジア太平洋地域と日本の将来(大和証券VP)	15,000	1	A	1990 H3/5
89	No77	瓊林会の大学院設置期成会	瓊林会本部たより	グレイア	瓊林会による期成会(会長・支部長・専務理事)	1,000	0	B	
90	No77	校歌の見直しについての提議	石田拓之(31)	グレイア	学制改革後40年、現実に即して第3・5節を削除、	1,000	0	B	
91	No78	未来にはばたく経済学部	廣山健介(助教授)	3-4	組織の衰退-惰性モデルの陥落をどう防ぐか	2,400	1	C	1990 H3/5
92	No78	これからの日本経済	飯田経夫(教授)	35-51	INS・電子通信の技術による情報革命の到来	20,000	0	A	

注記 記号欄→ A=社会経済論・B=瓊林会関連・C=学問-教育-大学院・D=恩師先人像・E=青春長崎記・F=他随想雑録

瓊林49~100号 主要記事一覧

行番	号番	記事表題	執筆者	掲載頁	記事内容	記事分量	写真	記号	刊行年月
93	No79	雲仙岳噴火	広瀬繁喜(10)	11-12	雲仙岳噴火(H2/11-H3/10)の状況報告	3,500	0	H	H3/12
94	No79	法話集「伽耶山のこだま」	朴峻杓(17)	94(3)	韓国仏教法話集を山陰放送藤井Pが友情出版	14,000	1	H	
95	No80	母校の大学院問題	梅田昭郎(44)	5-13	前畑発言に至る大学院予算削除の状況報告	12,000	4	C	1992 H4/5
96	No80	経済学部を考える三者懇談会	ゼミ連合会(学生)	14-18	三者懇談会と学生側の問題意識・課題	6,500	2	C	
97	No80	本部学園だより(院問題状況報告)	事務局	76-77	本部(見解)・学園だより(助・教授7名転出)	2,000	0	C	
98	No81	母校の大学院問題その後の動向	梅田昭郎(44)	10-13	(H4/5)「瓊林80号」以降の状況報告	5,000	1	C	1992 H4/12
99	No81	大阪総会に学ぶ	兵藤幸雄(36)*	14-16	「福岡」に学ぶ本部・学部・文部省の関係改善	2,500	0	B	
100	No81	同窓の会活性化提案	雪竹敬三(27)	24-26	構図のあらまし・メリッタントと「たら族」	4,500	0	B	
101	No81	東南ア研金の経過と運用状況	事務局(報告)	17-19	東南ア研究交流奨励金の経過と運用状況	2,500	0	B	H5/4
102	No82	長崎高商よこれでよいのか?	菊岡孝一(24)	6	教官欠員3割「死に体から学部スクラップ化」	700	1	C	
103	No82	地方都市と大学盛衰	浜永孝雄(G21)	28-30	経済学部も地方の個性を生かした大学造りを	3,000	0	C	H5/12
104	No83	母校の近況	梅田昭郎(44)	15-16	高島学部長誕生・教授陣補充・会費納入率42%	2,200	0	C	
105	No84	長崎工専・被爆体験集の刊行	畑野昭雄(44)	28-29	(S20/4)長崎工業専門学校入学者被爆体験集	2,400	0	B	H6/4
106	No84	瓊林会への提言	堀太実男(G16)	16-17	高商世代の出番なし、私は総合大学の学生	2,000	0	B	
107	No85	戦後50年私の瓊林会母校感	松本比佐生(36)	23-24	瓊林会母校所感は古色過ぎか(対堀氏提言)	2,000	0	H	1994 H6/12
108	No85	高祖雅己君の殉職	清野信之(40)	27-28	(S19)年夏、長崎造船所での動員学徒傷害死	1,500	0	E	
109	No85	ある幻想	杉原敏夫(教授)	10-12	システム開発屋のプライベート過ぎる?! 寄稿	4,200	1	H	
110	No86	大学院実現の喜びと後輩への言葉	梅田昭郎(44)	8-9	大学院実現の喜び・群を抜く教授陣の充実	2,500	0	C	1995 H7/5
111	No86	今、経済学部が変わる	高橋元(教授)	6-7	クラスター制大学院・社会的ニーズ・冬の時代	3,000	1	C	
112	No86	兵庫県南部地震罹災の記	藤原益蔵(37)	14-16	阪神大震災罹災の記(七言絶句)	3,500	1	H	1995 H7/13
113	No87	母校創立90周年を祝う	瓊林会事務局	1-10	90周年祝典・式次第・来賓・出席者の記録	15,000	10	G	
114	No87	「原子雲の青春」刊行報告	被爆体験集刊行委	59	長崎工専被爆体験集刊行報告	1,500	0	B	
115	No87	瓊林会活性化の構想二案	内田恒吾(32)	19	同窓会人材の情報交換・東南ア研の実働	1,500	0	B	
116	No87	香港駐在5年間	佐藤弘康(G26)	35-37	大和証券香港駐在5年・台湾華僑のタフネゴ	2,000	0	B	
117	No87	我々が子供に残すもの	野口市太郎(G26)	38-40	国家の借入残高について	2,500	0	H	
118	No87	藤源会と今日の私の経営	宮崎達雄(G12)	31-32	卒後31年「チョーコー醤油」の構造改善事業	1,700	0	H	
119	No88	経済学部の発展を目指して	上野清貴(教授)	3-4	国際開発学科・夜間主コース・大学院充実	1,400	1	C	H8/5
120	No88	仰げば尊し母校を去るにあたり	竹内毅(教授/G1)	5-7	片淵に取り残されし、仰げば尊しなき母校	4,000	1	C	
121	No89	人事部長の人材感と大学教育	藤野哲也(教授)	8-10	総合的人間教育と実践的知識教育の統合	4,000	1	C	H8/12
122	No89	東南ア研究交流奨励金成果報告	事務局(赤間42)	11-14	H8年(1.73億)東南ア研究交流奨励金の成果報告	3,000	1	G	
123	No90	我が国金融の諸問題と方向	相沢幸悦(教授)	3-5	金融機関の不良債権償却問題と規制緩和	3,000	1	A	H9/5
124	No90	経済学部の広報活動について	福岡隆昇(G29)	28-29	卒後16年、「赤本」にみる母校のパブリシテイ	1,500	0	C	
125	No91	経済学部の現状と課題	菅家正瑞(学部長)	7-10	コース制・学生指導体制・東南ア研省令化・	5,000	1	C	1997 H9/12
126	No91	長大経済学部6コース導入へ	長崎新聞記事	54	経済学部6コース導入へ・商か短大は統合	1,000	0	G	
127	No91	21世紀・事業革新と人材教育	菅家・田崎・天野	52-53	現代社会のニーズに対応する人材教育とは	3,000	4	G	
128	No91	研究から教育重視へ	式部透(学部教授)	55	ヨソ者が内側から見た大学改革(大蔵出向記)	3,600	1	G	H10/5
129	No92	金融ピクパンの意味するもの	矢島邦昭(教授)	3-5	金融・財務制度の構造的変革期への対処策	4,000	1	A	
130	No93	アジア研究の周辺	井手啓二(教授)	6-8	亜細亜の高度成長・中国は何処へ・ア研ゼミ4年	4,000	1	A	1998 H10/12
131	No93	巨大証券の消滅を見送る	北島秀喜(学15)	28-29	二百数十万口座の返却業務に携わって故郷へ	2,500	0	H	
132	No93	山一証券自主廃業で思うこと	辻原留美子(学32)	37-39	今2児の母・8.3年勤務の想い出・天国と地獄	2,000	0	H	
133	No94	当世学生気質	荒巻健二(教授)	3-7	大蔵出向教授・(私語・女性上位・学生海外研修)	5,200	1	C	1999 H11/5
134	No94	暁の星を見る如く	船橋佐和子(学33)	32-35	私の進学事情・「ウイングポート長崎」由来	2,500	0	H	
135	No94	別府先生の33回忌法要	大場敏男(学3)	23-25	恩師(S26-29・会計ゼミ)の33回忌法要に出席	1,500	0	H	
136	No94	21世紀・事業革新と人材教育	事務局(赤間42)	74-76	事業革新と人材の供給(菅家・福地・田崎氏)	5,000	5	B	H11/12
137	No95	教育の情報化とMediaStation	村田嘉弘(教授)	6-10	経済学部の情報化教育の展開・無線LAN装備	6,000	3	C	
138	No96	経済学部と私	都野尚典(元学部長)	3-4	35(1962-97)年母校教官として学部史を回顧	2,500	0	B	2000 H12/5
139	No96	決着した長崎大再整備問題	長崎新聞(H12/3)	38-39	移転統合が現在地に、政治絡んだ15年論争	5,000	1	G	
140	No96	「瓊林」アンケート集計結果	事務局(報告)	59	107(G40)通・興味-希望-不要記事/回数/体裁	1,000	1	B	

瓊林49~100号 主要記事一覧

行番	号番	記事表題	執筆者	掲載頁	記事内容	記事分量	写真	記号	刊行年月
141	No97	八月九日片淵の学舎被爆す	的野圭志(39)	29-31	被災時前後のの学舎と恩師・同僚の記憶	4,000	0	H	2000 H12/12
142	No97	「君若き頃、西陵去りて半世紀」	今村研(43)	33	高商41回(冲天会)同期誌の編集に当たって	1,500	0	H	
143	No97	「実務家」教員大学に活力	長崎新聞(H12/3)	104-105	長崎新聞(H12/9/2)紙面/菅家学部長に聞く	3,000	2	G	
144	No98	三菱造船所の原価計算	山下正喜(教授)*	2-4	1898(M31)-1918(T7)年三菱造船原価計算史	4,000	1	C	H13/5
145	No98	金融再編成とこれからの日本経済	宮内憲吾(G20)	5-11	大手銀の合従連衡・理由背景・日経への圧力	6,000	5	A	
146	No99	新しい息吹を-百の持つ意味-	福地茂雄(G5)	5	参画する価値でなく、価値を創り出す動きへ	1,500	1	B	H13/12
147	No99	特集・同窓会を考える	事務局(一ノ瀬剛)	6-21	編集16名(41~学1)集稿、若き血の結集可能か	15,000	4	B	
148	No100	特集・同窓会を考える(2)	事務局(一ノ瀬剛)	5-17	指導層7氏の書簡集-野田操・前田・藤吉・高木	18,000	3	B	2002 H14/5
149	No100	国立大学法人化を前にして	前田三郎(40)	6-7	創造性開発型教育・寄付金非課税化を検討	1,400	0	B	
150	No100	瓊林会を想う	藤吉亘(43)	7-9	親睦絶対、次母校支援・会費納入率・若年女性	2,500	0	B	
Add1	No100	「瓊林」通覧記(上)	佐野暁(G2)	86-89	「瓊林特報」~「瓊林」25号を通覧、東南ア研・移転	5,200	1	B	
Add2	No100	「瓊林」99-100号のあとがき	一ノ瀬剛(G4)	110/128	大判化、同窓会誌を再考する試み、意欲的編集	2,000	0	B	
注記	(1)本表の「記事分量」は概算の文字数。写真欄の数値は枚数。(2)執筆者名の括弧は、卒業回数。*印は「瓊林会の本110冊を読む」の著者。 (3)表の記事分量の数字は寄稿記事の概算字数である。(4)記号欄は、寄稿記事の内容を区分した記号で下表を参照されたし。 (4)記号 A=社会経済論・B=瓊林会関連・C=学問-教育-大学院・D=恩師先人像・E=青春長崎記・F=戦乱外訪記・F=他随想雑録								

※主要記事のベスト10を社会的視点で選んでみた。
 また、記事区分集計表も作成してみたのでご参照いただきたい。

★「瓊林」49~100号主要記事—150篇のベスト10

Best	誌号	記事表題	執筆者	記事内容~評価・推薦理由
1	No80	母校の大学院問題	梅田昭郎(44)	前畑発言による大学院問題の専務理事による報告、続報No81/83
2	No96	経済学部と私	都野尚典(教授)	生涯を母校教官で過ごした学部長の回顧-自省録・H5総会挨拶も重要
3	No74	転任の辞	田村祐一郎(教)	「暗い・変わってよかった」と言われる母校を去る教務委員長の悔悟
4	No100	国立大学法人化を前にして	前田三郎(40)	大学の個性化・職員の非公務員化・東南ア基金・会費納入率等問題山積
5	No100	瓊林会を想う	藤善亘(43)	会員の親睦第一義、余裕あれば母校援助なれど、定款「親睦」字義なし
6	No91	研究から教育重視へ	式部透(教授)	(H6/9/10)長崎新聞文化欄収載記事・ヨソ者/大蔵省より母校教師へ
7	No81	東南ア基金の経過運用	事務局(赤間)	80年募金1.95億の経過運用と審議会、年次定例報告は無視出来ぬ
8	No97	(8/9)片淵の校舎被爆す	的野圭志(39)	母校構内で被爆。血まみれの先生方、講堂・図書館が地獄の救護所へ
9	No54	薄命の「成隣会館」	三瀬清次郎(24)	隆盛期の事務局長が語る昭和戦前期の瓊林会館。「七十年史余録」
10	No55	一卒業生80周年の夢	J・T	母校危機を早くから予言した匿名氏原稿。No59「大学院設置を！」

記事区分集計表

記号	記事区分	記事詳細内容	49-60号	61-78号	79-100号	行番Add	記事件数計
A	経済社会論	現代経済社会AT論・解題		7	2	2	11
B	瓊林会関連	瓊林・友の会関連提言報告	5	10	17		32
C	学問・教育・院	母校教科課程・大学院問題	6	11	17		34
D	恩師先人録	恩師・先輩・僚友の敬慕追悼	5	4	0		9
E	青春長崎記	母校・長崎・青春の懐古郷愁	5	3	1		9
F	戦乱・外訪記	戦乱・訪問中国・外国記	10	3	0		13
G	新聞・記念祭	新聞記事・各種記念祭	5	4	7		16
H	他随想雑録	その他・所感随想・雑録	9	5	14		28
		件数合計(件)	45	47	58	2	152